

鹿老連

発行者
鹿沼市老人クラブ連合会
〒322-0043 鹿沼市万町931-1
TEL 0289-65-5191(呼)
鹿沼市総合福祉センター内
編集者
広報部編集委員会



「令和元年」を迎えて

鹿沼市老人クラブ連合会

会長 小島 正男

梅雨前線が停滞しており、台風の影響もあつてか猛烈な雨に被害を受けている地域があり、心からお見舞い申し上げます。

4月25日の定期総会も無事に終了し、新しい年度に向けて出発して早や2カ月が過ぎました。

本会も平成30年度に於いては、当初計画いたしました会務並びに事業について、予定どおり順調に実施することができましたことは、取りも直さず役員、会員の皆さまのご協力によるものであり、加えて行政並びに関係各種団体様のお力添えがあったことであり、心からお礼申し上げます。

この度、私たちは新しく「令和」の時代を迎えました。定期総会も「平成」最後のものとなり、皆さまにおかれましては、「平成の時代」を振り返り、それぞれに感慨深いものがあるのではないかと思えます。老人クラ

ブの活動もこの間に大きく変化して参りました。高齢化の進展に伴う地域社会の要請に応え、従来からの自らの健康づくりや仲間との楽しい語らいと共に、人や地域の役に立つ「社会貢献」にも力一杯の活動を展開して参りました。

新元号「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」の意味があるとのことですが、この新しい時代においても、老人クラブは、新元号に相応しい「住民同士が互いに心を寄せ合える明るい地域社会」づくりの担い手としての役割を果たしつつ、生きがいを持つて活動を続けていきたいものであります。

平成30年度は、老人クラブの組織強化を図るための柱である「仲間を増やそう800人」のスローガンを掲げ、市当局をはじめ、社会福祉協議会そして自治会会長さん等のご支援とご協力

をいただきながら取り組んで参りましたが、成果を見る事ができず5年間の運動が終了しました。しかし運動の総括はこれからであります。今後も引き続き皆さんとともに会員増強に取り組みを進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

また、今後の老人クラブへの具体的な活動として求められているのが、いわゆる「2025年問題」への対応であります。

2025年は「団塊の世代」の皆さんがすべて75歳以上となる節目の年であり、この年以降、高齢者のみの世帯や、認知症高齢者の増加など、高齢化に絡む様々な地域課題がより現実のものとなって参ります。こうした状況の中、老人クラブには、これまでの友愛訪問等の実績から、特に在宅高齢者に対する生活支援や介護予防活動の担い手としての役割が大きく期待され

ております。

このような要請に応え、支え合い社会づくりの主要な担い手となることで、地域に於いて老人クラブの存在感を示して参りたいと考えております。

以上のように本年度引き続き目標の目玉として掲げたい「仲間づくり」は、老人クラブに参加することにより孤独を防ぎ、地域の顔見知り仲間になり、繋がりを持つことが、一人ひとりの豊かな高齢期を支えていくことにあります。私たちは組織を挙げて「長寿社会」の実現と、意欲ある高齢者の知識と経験を生かして、地域社会の支え手として生涯を送ることのできる「生涯現役社会」の実現に向けて地域の期待に応えていくためにも、どうか各地区におかれても魅力ある活発な活動を展開していただき、会員皆さま揃って老人クラブ活動を通して健康の維持増進に努め、元気な高齢者の存在感を一層高められ、会員増強に、そして支えることのできる高齢者を目指した活動を展開して下さいますようお願い申し上げます。

(2019.7.1)

総務部

部長 鈴木 康子

4月25日、2019年度通常総会が参加者89名で盛大に開催されました。ご協力ありがとうございました。

令和元年の事業は「健康」「友愛」「奉仕」を柱に事業計画を作成し、まず研修親睦旅行を6月14・15日の両日に塩原温泉に泊まり、翌日は日光に行き、リニューアルした東照宮、輪王寺その他地元でありながらなかなか奥まで見る事が無い、各名所を専門ガイドの細かい説明をいただき、素晴らしい研修となりました。また、



夜の懇親会は多くの会員と交流が出来る、実のある研修・親睦旅行でした。

その他、今後の計画を大きく分けると単位役員等の研修会を2回これは地域支援事業を理解し、「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで送るために」私たちの出来る事は、何か？を具体的に学び現実に結び付けたいと思います。特に、

* 高齢者は高齢者でも【元気な高齢者】を老人クラブの活動を通して、何時までも元気で、生きがいを持つて活躍し、それが介護予防につながるのではないか。

* 昔は家族が担ってくれていた一寸した生活支援を【地域の支え合い】で【向う三軒両隣、困った時のお互い様】を実施したい。まだまだありますが、出来る事から始めたい。

そして、高齢者フェスティバル老人クラブ大会と考えております。大きなテーマは毎年同じだが、中身については少しずつ前進してゆきたいと考えております。皆様のご協力を

お願い致します。

健康増進部

部長 福田 豊作

前健康増進部長の退任に伴い、今年定期総会において、選任されました。微力ではありますが、部会員の皆様の指導と協力をいただき努めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

今年交通安全グラウンドゴルフ大会を皮切りに、新スポーツ大会(県大会予選会)ペタンク・輪投げ・グラウンドゴルフを、八月下旬〜九月上旬に、秋のスポーツ大会輪投げ・グラウンドゴルフは、十月の下旬〜十一月の初め頃に実施したいと考えております。

また例年恒例となっている、体力測定は二月頃に予定しております。

今年、各スポーツ大会を通じ多数参加し、健康維持・増進を計り、動ける身体づくりを行い、平均寿命と健康寿命の差を短縮して行こうではありませんか。

この事業を行うには、役員・会員

の皆様のご協力を、宜しくお願ひ申し上げます。

女性部

部長 並木 洋子

五月早々に年号も「令和」に改まり、新天皇が即位しました。私も身がひきしまる思いでした。「五月二十日」に「第一回女性部会」「六月二十日」に「第二回女性部会」を開催しました。

今年各協議会の女性部長が選出していない協議会が五地区ほどありまして、活気がなく物足りない感を受けました。六月十六日は「県民の日」県庁内でイベントが行なわれました。この日は朝から一日中雨でした。県からの依頼があり、わが鹿沼から「木遣り」「下沢地区のお囃子」そして私達女性部(老人クラブ)の「いちご音頭」「鹿沼秋まつり」「日光和楽踊り」など、県知事、鹿沼市長、衆議院議員、県議会議員などが見守る中、にぎやかに終ることが出来ました。六月二十四日はレディスグラウンドゴルフ大会が雨のため延期となり、翌、二十五日に行ないました。

今年各協議会の女性部長が選出していない協議会が五地区ほどありまして、活気がなく物足りない感を受けました。六月十六日は「県民の日」県庁内でイベントが行なわれました。この日は朝から一日中雨でした。県からの依頼があり、わが鹿沼から「木遣り」「下沢地区のお囃子」そして私達女性部(老人クラブ)の「いちご音頭」「鹿沼秋まつり」「日光和楽踊り」など、県知事、鹿沼市長、衆議院議員、県議会議員などが見守る中、にぎやかに終ることが出来ました。六月二十四日はレディスグラウンドゴルフ大会が雨のため延期となり、翌、二十五日に行ないました。



雨や、各協議会の行事などと重なり、いつもより参加者が少なかったのですが、天候にも恵まれ、選手自らが責任を意識して、中身の濃いゲームで大成功のうちに終ることが出来ました。ホールインワンが参加者人数の約半数ちかくをしめ、技術の良さを感じました。今まではグラウンドゴルフの時は、コース作りを男性の方にお手伝いをしていただきましたが、レディスなのだから女性だけで頑張つてみようよと鈴木相談役に言われ、「そうだ!」と私の心の中に「瞬煌めくものがありました。女性役員「二丸」となっ

て、早朝より頑張りでどうにか形にすることが出来ました。皆がやれば出来る、と実感したひとときでした。

広報部

部長 増淵 太吉

栃木いきいきクラブ大学校(前栃木県老連大学校)卒業生と、本年度に入学された17期とOB会が結成された各期の代表による、【令和】を迎えての最初の役員会に、5期会の代表として出席、ミーティングに使用した資料(県高齢対策課主催の市町高齢者参加担当者会議5月実施使用)により抜粋して参考にしました。

「老人クラブの推進について」老人クラブの活動は次の2つに大別されます。

①生活を豊かにする楽しい活動 仲間づくりを通して生きがいと健康作り・スポーツ・趣味・レクリエーション・学習活動等。

②地域を豊かにする社会活動 知識や経験を生かした地域の諸団体との協働活動。友愛訪問・ボランティア活動・伝承活動・他世代交

流・環境美化等。

バランスの取れた活動の展開 高齢化の進展に伴い、地域での社会活動の重要性が高まりつつあり、この両活動をバランスよく展開することが、クラブにとってもまた地域社会にとつても必要な状況になっていきます。

また、新たな会員獲得が厳しい中にあつても、会員増を実現している単位クラブは全国に沢山ありますが共通する事項は「自治会との強い連携」です。

地元の自治会と協力関係が出来ている老人クラブは、会員の減る事もなく、活動基盤がしっかりしています。自治会員が一定の年齢になったら、当たり前のように老人クラブに入会するよう仕組みが出来ていれば良いと考えられますので、地区での立ち上げには、自治会の皆さん「支え合い社会の構築は、自治会にとつても重要な課題」であり連携強化を図るため、行政側からも自治会と老人クラブの連携強化に協力してもらえらる運動を、盛り上げる必要があります。

創作部

部長 高橋 充

毎年恒例の鹿沼市高齢者フェスティバル並びに鹿沼市老人クラブ大会が、11月28日(木)市民文化センターで開催されます。創作部では会員一人ひとりが創作活動で「ゆとり・うるおい・やすらぎ」に満ちた生活につなげることができればと願っています。令和元年新しい時代の幕開けの作品展に、数多くの皆様の出品を創作部一同期待しています。

また、今年度の県老連創作作品展が、令和元年8月27日(火)から29日(木)まで、宇都宮市文化会館で開催が予定されています。同展示会に昨年度の鹿老連の展示会で金賞、銀賞に入賞された作品が展示されています。どうぞご期待のうえ他市町の優秀作品共々鑑賞して頂ければ幸いです。創作部出品を出品したり、鑑賞されたりすることには大きな意義があります。今後も楽しみながら創作して頂き多数の皆様の参加をお願いします。

地区だより

北部地区

老人クラブ役員

北部地区元気会 小暮 卓

私が、元気会に入会したのは、まだ会社の嘱託勤務の63歳の頃、前会長の村山氏が、年齢80才の頃、後任にと、家に来て依頼に訪れた。最初固辞した所、再三の依頼に屈して、お受けした。自分もまだ年令的にも、受け入れ難かったが、書類等を引き受けました。村山氏と連絡を取りながら進めました。4〜5年経った頃、北部地区の市村会長が、健康を害して入院し、御家族の方が、書類等一式を、私共の所へ届けて来た。市村さんから、私に暗に自分が引き受けるという事だと、思いました。が、責任が重いと感じたので、鹿老連役員さんに連絡した所、指導

を受けながら、務める覚悟で、お受けして、現在に至っております。その後、事務局よりいただく書類・会議の際の内容により、イベントの参加に伴い、選手のノミネート等、単体会長、役員を集めて、決定したメンバーの報告等々が、厳しい時もありました。その間、会員もかなり減少し、役を受ける人も無い場合、自分がダブル役を、つまり専門部も兼任する事になっております。この様な状態は他の地区でも聞いております。こんな事から、役を受ける人がいない為無くなった地区もあり、目標の会員増強は、厳しいと思えます。

北犬飼地区

地域社会を創る

北犬飼地区津田長寿会 寺崎 尚美

鹿沼市の昨年度の高齢化率は29・14%、約30%です。鹿沼市民10人の内、3人は高齢者ということとなります。この高齢化率は年を追うごとに上り、近い将来40%に達するという試算がなされています。このような状況を考えますと、もはや敬老などと高齢者が周囲から大切にされる時代は終りました。

本会は、前会長増淵太吉さんの働き掛けにより、昨年10月、長寿会メンバーが中心となり、地区内二ヶ所にほととサロンを立ち上げました。

サロンは、鹿沼市の高齢者いきが支援事業ですが、高齢者は地域社会を支える人材であるとの認識に立ち、サロン活動を通して地域づくりに着手しました。子供から高齢者まで全世代を対象とした企画を打ち出し、地域ぐるみの



参加を求めています。小中学生には七夕やハロウィン、クリスマス、どんど焼きを、二十歳以上、中高年者には年金支給月に年金酒場と銘打って老若男女が一堂に会する場を設けました。酒とカラオケで地域ぐるみの親交を深めています。カラオケの音響とプロジェクタを組み合わせた映画鑑賞会や鹿沼市の出前講座、駐在所など適時に多方面に働きかけをして多様な企画で参加を求めています。

高齢者が疎まれる存在ではなく、地域社会を創る人材として若い世代からも賛同が得られるよう努めています。生涯現役、活動の場が広がりました。

菊沢地区

仲間や他団体と行健事の共同化を

菊沢地区・玉田町豊友会 黒川 榮三

人口減少・少子高齢化時代を迎え、鹿沼市でも会員の減少や後継者不足を訴える地区が目立ってきた。当会(大栗靖夫会長)も例に漏れず会員の高齢化が進んだが、会員は増えました。積極的な勧誘が奏功した結果かもしれません。

鹿嶋神社の清掃や花壇整備に取り組むほか、自治会(鈴木道夫会長)の「三世代ふれあいまつり」や「ホットサロン玉田」(金田教代表)に積極的に参画している。



懐かしい歌を歌って、楽しい一日を過ごした(3月2日)

「ほつとホーム」の「平井好運営委員長」の催しへの出席もそんな活

動の一環。今年3月のひな祭りでは西部地区のお年寄り約百人が集い、バンド演奏に合わせて「青い山脈」などの歌謡曲を合唱し、交流を深めました。佐藤信市長も駆け付け、自慢ののどを聞かせていた。7月の子供のお楽しみ交流会にも参加しました。

また、千渡白寿会と菊沢地区老人クラブ連絡協議会(福田豊作会長)を組織し、健康維持や体力づくりを努めているほか、市の出前講座を活用したシルバークラス講座を開講。7月から悪徳商法対策、介護予防法、鹿沼の観光等を学び、おもちゃゲームなどを楽しみます。10月には益子町への施設見学会を行い見聞を広げます。

高齢化時代を迎えたからといって現状を嘆いたり、手を拱く



花壇の花植え



春の研修旅行(猪苗代方面)

者の健康状態把握の情報交換の場にもなっている。②の活動は、古峰ヶ原街道沿いの三か所に花壇を設け、花の植栽と周辺の美化に努めている。③は、春秋の研

私たちの下沢寿会は、六十代後半から九十代前半までの男女38人の会員から成っている。会の活動は、会員の親睦を中心とした時代の状況や年齢を考慮し、次の三点を基本に事業を展開している。①健康の維持増進②地域の美化・奉仕活動③文化・教養の涵養である。具体的な活

動をそれぞれ一例ずつ紹介します。①については、地域のグラウンドゴルフ愛好会やゲートボール協会と連携し週に三回程度活動している。また、地域の夏の三世代間交流イベントへの協力や市、県、全国大会への参加もし、優秀な成績を残している。練習合間の休憩が、地域の高齢

東大芦地区

下沢寿会の活動について

下沢寿会会長 大貫 良明

ただだと事態は好転しません。まず仲間や他団体との連携を試みてはどうでしょうか。催事を共同で開くのもいいし、隠れた「まちかど先生」を探して行事に

結び付け、会合の魅力を高める手もあります。可能な活動から具体化へ工夫をこらせる絶好の機会と受け止めたものです。

修旅行やサロン事業「下沢憩いのひろば」への参加協力を通して県内外の史跡の視察や楽しく役立つ体験と講話を中心に進めて

西大芦地区

グラウンドゴルフ大会に参加して

西大芦地区三区福寿会 佐藤 キミ

六月二十五日に実施されたグラウンドゴルフ大会に出場し、我ながら恥じ入ること甚だしい限りのプレーの連発であり、その場から一刻も早く逃げ出したい思いでいっぱいでありました。グラウンドゴルフは昨年と今回で2度目の体験となりましたが、何故ボールがもう少し遠くまで飛んでくれないのかと泣き出したい程の長い時間に苦しみました。この様な惨めな連続の私に優しくご指導くださいましたプレーヤーの皆さまに深く感謝を申し上げる次第です。練習もせずに出場すること自体、正に恥知ら

いる。こうした活動を通し会員の心身共に健やかな生活の維持発展を図っている。

ずで無謀極まり無い行為であったと反省しきりの自分でありました。毎日ゲートボールを楽しんでいるのですからせめて一日でも練習の日に出来なかつたかと悔いるばかりであります。これからはグラウンドゴルフ会員の皆様にお願ひし、基本の技を教授願ひたいと痛感一人の私です。



栗野地区

下町睦会の現状

栗野地区 下町睦会 会長 小嶋 英雄

下町睦会は、今年創立57年目を迎えております。平成26年には50周年記念誌「あゆみ」を発刊しました。

50余年前の先人達の理解と協力により「明朗な睦会」を理想として、まず入会年齢を60歳を目安に(現在は65歳)下町睦会が発足しました。

発足当時から先人達の粘り強い努力と協調の結果、65歳になると全員が加入すると自覚しており、他のクラブでは考えられない100%加入率を誇ってまいりました。しかし近年は都市化傾向が進み100%加入が崩れつつあり、誠に残念であります。伝統ある睦会を発展させるには睦会の自助だけでなく、自治会との連携を強め、更なる努力を結集しなければと痛感しています。

少子高齢化によりまず子供会が無くなり、交流が絶えたことは残念であり、更には会員44名のうち19名が80歳以上という高齢の現状と、入会した若い会員は、まだ現役で働いている人が多く、平日でしかも昼間に実施する諸行事には参加できない状況にあり、会費のみ協力する会員であることから、諸行事の不参加が多くなっている。今後、行事内容の検討等課題を解決するためにも、会員からの意見を取り入れ活性化していきたいと考えています。そして、これまでの輝かしい歴史と伝統を引き継ぐために、焦らず一歩進んでいく所存です。



第13回交通安全グラウンド・ゴルフ大会成績表

日時 令和元年 7月 9日(火)
場所 栗野総合運動公園

順位	地区名	氏名	スコア	1打	2打	3打	4打
市長杯	東大芦	大貫利雄	64	4	13	14	1
議長杯	栗野	大森佑治	68	3	15	12	2
警察署長杯	南摩	小磯昭子	69	3	14	13	2
安全協会長杯	北押原	鈴木康子	71	3	13	13	3
連合会長杯	南摩	富山ヤエ	72	2	16	12	2

車庫の隅巢より出しか雛雀
チュッチュッチュッチュツと命たくまし
花びらの散りきを集め王女様
気分思いつばらの花見る



南摩地区 西沢二区長寿会

阿部 芳江

富士やまの裾野に楚楚と駒つなぎ
紅を灯して梅雨を咲き次ぐ
娑羅の花真盛るなかを黒揚羽
居座るごとく花を吸い居り



中央地区 花岡町 共寿会

豊田 春江



編集後記

年号が変わり、初出版になりました。会員の数名が変りましたが、編集員は変わらず頑張ります。

仮名が生まれたのは十世紀頃だと言われています。その二百年程前に編集されたのが、日本最古の和歌集が万葉集です。全文漢字です。

少々書道的になりますが勉強が進むと、五言絶句とか六言絶句とか、中国より渡来した詩文に影響されて出来た日本版です。中国千年以上の昔より伝わる詩であるにもかかわらず、我々日本人にも何とも言えない深い味わいの響きを感じる言葉遣いを勉強し大衆の作品を集大成し作り上げた、日本唯一の代表から、序文の一説とは言え「人々が美しく、心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」の意味のある【令和】に決まった。

新聞各社の一斉世論調査が63%以上が好感でした、と報じました。安心しました。

新天皇はもとより、皆さんと共に幸多かれと祈り、新年は、明るく元気に、大空に背伸び出来るよう頑張ります。

編集員一同